



ソーシャル・キャピタルへのICT 利活用

経済学部 准教授 田井 義人

1993年、アメリカ合衆国の政治学者 ロバート・パットナムは、著書『Making Democracy Work』（邦訳『哲学する民主主義』）の中で、「ソーシャル・キャピタルとは、人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高める「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会的仕組みの特徴である」と述べた。人々の協調行動が活発化することにより社会の効率性を高めることができるという考え方であり、社会の信頼関係、規範、ネットワークといった社会組織の重要性を説く概念である。

パットナムのいうソーシャル・キャピタルを構築するための情報利活用手段ツールとしてICTの利活用を考える。ICTがソーシャル・キャピタル形成に貢献できるかもしれないと考えた根拠として、通信環境の飛躍的な整備状況がある。事例として私が趣味と実益を兼ねて整備してきた自宅の通信環境について述べる。まず、現在のインターネットを使ったネットワーク環境ができる以前は、どの様にしてICT（当時はパソコン通信と呼んでいた）を使って個々人のネットワークを構築してきたかについてお話ししたい。

PC-VAN、NIFTY-SERVEなどの通信業者が提供するネットワーク回線を活用して、遠方の友人とパソコン通信によって情報交換をしていた。様々な趣味のフォーラムがあり、そのフォーラムにはシスオペという管理者が炎上（議論が伯仲し収拾がつかなくなること）を制御していた。誹謗・中傷の多いメンバはシスオペまたは通信業者によってフォーラムからの退去を命じられた。ピーガーという音を立てるMODEMによって電話の通信回線を使って相手のパソコンに繋げ、その音が静かになるとPCの画面にCONNECTと表示され、文章入力が可能となる。通信料金を節約し、入力を円滑にするため、決まった用語はFEP（漢字変換プログラム）に登録して迅速な文章作成を心がけた。FEPの1つであるATOKとの長いつきあいはここから始まった。電話でなく通信ソフトにあらかじめ聞きたい内容のコメントを入力しておけば、モデムで繋いだときにコメントを見ることが出来る。これを現在、携帯電話で実現したのがi-modeではないかと思う。当時は、電話回線が混雑してくると途中でも断線した。テレホーダイという21時以降の通信の課金の上限がある契約に入って、チャット（ネットワークでコメントの交換を行うこと）に夢中になり翌日、苦勞した経験がある。その後MODEM、ISDN、ADSLそして現在のFTTHへと通信契約を更新していった。このような通信環境を経験した私としては、現在のインターネットのネットワーク環境は夢のようである。

MS-DOS、Windows3.1BそしてWindows95からWindows7などネットワークを支えるOSも飛躍的に発展し、通信の安定性が保障されてきた。その期間に、通信料金節約というインセンティブから漢字登録、入力タイピングの速さの習得、シスオペに叱られないようにネチケット（ネットワークのエチケット）を習得する等のスキルが身についた。

データ搬送量、OS、さらに表示プログラム等の飛躍的な通信環境の発展とともに通信ソフトにも目覚しい発展があった。それらの中で、趣味・趣向だけでなくビジネスにまで発展したものととして Facebook がある。Facebook 以前に地域ネットワークの SNS や紹介型参加ネットワークの mixi さらに任意に意見を述べる Twitter 等も経験した。しかし、それらには匿名性や閉鎖性が強く、また SNS は地域に特化した情報交換を目的としたものが多い。さらに氏名を明かさなくても発言できるため、信憑性の低い情報や誹謗中傷の書き込みに陥りやすく、好意的な仲間の広がりやビジネスへの情報収集場所としては不十分であり、情報提供・収集・交換の利便性を実感できなかった。たとえば Twitter で述べた意見を素性の分からない不特定のフォロワーに評価されても、その評価が納得いけるものかどうか、疑わしかったのである。

Facebook は、意見を述べたり情報提供すると「いいね」という表示とともにネットワークが拡大し、氏名や多くは顔が明らかとなった友達からの情報提供や蓄積、活用が可能となる。従って、個人の意見や情報を Facebook で提供しないと前述の全ての通信ネットワークと変わらない。意見に対して、友達申請し承認された仲間が反応してくれる。業種、年齢、社会的地位など全く関係がない。そこが Facebook の魅力でもある。

Facebook を開発したザッカーバーグ氏の伝記とも言うべき「The Social Network」という映画を見ると分かるように、当初彼は興味本位で Facebook のソフトを開発した。その点を映画では、如実に表現されていた。また、映画では、そこからビジネスへの発展までも画像化されていた。現在は、利用目的が様々な変化してきているが、Facebook が生まれる当初のプロセスが良く分かる。

私は、今では Facebook を見ない日はない。興味を喚起させる Facebook の特徴について述べる。まず1つめは、名前と素性を公開して意見を述べることである。また素性の分かる知人 (Facebook では「友達」という。) への意見に共鳴したり、何らかの意見を述べる事が出来る。友達が書かれた内容への意見には、必ず「いいね」が表示され、その次に自分の意見が記載される。まずは、投稿された意見への肯定的な表現が表示される。自分が Facebook に投稿した内容に意見が書かれると図 (次頁) に示すように意見の数が赤で表示される。因みに左の残りのアイコンは左から「友達申請」「友達からの直接意見 (他の友達には見えない)」そして「投稿内容への友達からの意見数」である。友達の素性がはっきりしているところが、Twitter との異なる点である。素性を明かさないことも可能であるが、そのような方との友達申請は承認しないこととしている。信頼関係は GIVE AND TAKE が原則であると思っている。また、Facebook の友達から教えていただいたのであるが、暗黙のルールとして、アイコンは「笑顔が原則」なのだそうである。少し堅いコメントでも笑顔を見れば、冷静に意見を書けるからである。

昨年、東北震災へのボランティア活動に参加したが、Facebook での友達との懇親会で、たまたま知り合った方と Facebook による紹介によって広島県のボランティアツアーに参加することが出来た。実際お会いしていなくても Facebook で多くの意見交換を実施しており、お会いした瞬間から長年の知人がごとき会話が出来た。バーチャルと現実とが瞬時に重なり会話が弾むという快感がある。これが2つめの特徴である。

一方ニコニコ動画 (以下「ニコ動」という。) を運営する企業ドワンゴの会長である川上量生氏は、「Facebook は、閉鎖的な友達空間での気持ちいい情報空間であり、そこには、自ら多数の場において比較・評価される文化は生まれない。それを担うのがニコ動である。」と述べていた。単に歌やダンスをしていてもそれが世間でどのような評価を受けるのか分からない。そこでニコ動に投稿して一般大衆 (ニコ動を見る不特定多数の人) の意見を得て啓発されるというものである。私は、少し意見が異なる。そのような面もあるであろうが、心地よい関係の友達だけの意見交換の場が Facebook ではない。友達の友達といった関係の友達も多く、時には議論しあう場合もある。そこから未経験の情報を得ることがある。素性が知

れているので2チャンネルのような表現にはならない。今では友達となった方々は200名近くになった。市長、行政の管理職、国、地方の議員、他大学教員、介護福祉、ICT、親族の介護の関係等さまざまである。彼らとグループを作ってその範囲内のメンバで少し突っ込んだ議論をすることもある。これが醍醐味である。顔と素性が分かっているので、節度ある議論になる。これが3つめの特徴である。

私の地方議員友達には2つの側面がある。日頃は、食事や猫の画像などの趣味の話や投稿しかしらない側面とひとたび議論のスイッチが入ると連続して、自治体の事業仕分け状況や議会の進捗状況などの報告をする側面がある。後者の報告は貴重であり、タイムリーな情報発信によって、私だけでなく他の友人も地方行政や国政にも関心を持つ切っ掛けとなる場合がある。その様に考えると匿名性の高いTwitterより信頼性の高いFaceBookの情報提供やYouTube、Ustreamで議会中継あるいはアーカイブとして議事内容をいつでも見れるような仕組み作りもこれから必要ではないだろうか。平日の国会や議会中継を勤務している社会人は見ることが出来ない。大阪市では議会、専門委員会だけでなく、日々、橋下市長の登庁、退庁時のインタビューをYouTubeで配信している。

(<http://www.city.osaka.lg.jp/seisakukikakushitsu/page/0000162543.html>)

Facebookの友達で中小企業の社長さんから大学生の就職活動について意見を頂いたことがある。しばらくFacebook上で他の中小企業の社長さんも加わり議論となった。私にとっては、このバーチャルな議論から就活に向かった環境整備に必要な検討項目という情報を提供頂いたと感謝している。その社長から「中小企業フェア」の案内や生涯所得の業種別変遷等の資料も提供頂いた。炎上ではなく、異業種からの貴重な意見収集ができたと思っている。Facebookの友達同士で顔や素性が分かっている。業績も分かっている。その関係の中で、通常は集わない異業種間での意見交換が可能となっている。これが4つめの特徴である。

また、Facebook内にグループを作り、他大学の先生との共同研究でiPadを活用したシステム開発の情報交換も行っている。現場での利用意見やシステム修正の意見をFacebookの特定の友達間での意見交換が可能となっており、開発者へ直にソフトの不具合が伝わる仕組みとなっている。

投稿した内容や所属するグループでの意見が投稿されると右図のように意見数が表示される。この画面はPCだけでなく、iPhone、全てのAndroidスマートフォンのFacebookソフトをインストールすると閲覧・投稿可能である。机上でなくても携帯端末で確認できる。しかも内容、画像すべて同期される。これが5つめの特徴である。

不特定多数に友達申請してしまった等の操作ミスなど個人情報に関わる慎重な対応がFacebookを使いこなすには必要であるが、確実に現代のソーシャルネットワークを構築するのに貢献しているICTツールだと私は思っている。

ニコ動、Ustream、Twitter、mixiこれらのソフトとFacebook、さらに携帯性が向上したiPadなどのタブレット端末等のハードとの複合的な活用により、新たなソーシャル・キャピタル形成が可能になってきたと思われる。

現在は試行錯誤の状況であり、これらのソフトとハードが、ビジネスあるいは地域経済にどのように貢献していくのか、これからの研究課題である。



情報メディアセンターでは英語の自習学習用に ATRCALL を提供しています。「コミュニケーション英語能力を身につけたい」「基礎から英語学習を始めたい」「授業の空き時間、時間を有効利用して、英語を勉強したい」「就職活動を有利に進められるように TOEIC で高得点を目指したい」と考えている方は、是非活用してください。

TOEIC ブリッジ、TOEIC を受験する場合は、右表を参照のうえ、自分のレベルに応じたコースを学習してください。また、初級から学習する場合は、Precollege2 の学習から始めてください。詳しくは、TOEIC、ATRCALL のウェブページを参照してください。

(<http://www.toeic.or.jp/>)

(<http://www.atr-lt.jp/products/brix/feature.html>)

ATRCALL のコースと難易度		TOEIC ブリッジ	TOEIC
易 ↑ ↓ 難	Precollege1	-	-
	Precollege2	90	230
	Precollege3	120	310
	Precollege4	140	395
	中級 C	-	650
	中級 D	-	750
	上級 A	-	800
	上級 B	-	850
ETS 公式問題集		-	

入り口

下記 URL を開くと、ユーザーズガイドが開きます。ATRCALL に関するお知らせ、学部ごとのお知らせ、ActiveX のインストール方法(自宅での利用)などはこちらのページを参照してください。

<http://www.setsunan.ac.jp/~center/kyositu/atrcall/atrindex.html>



教室での利用

情報処理室、CALL 教室 PC から利用可能です。ただし、情報処理室にはヘッドセットがありませんので、各自で用意する必要があります。CALL 教室にはヘッドセットが付いていますが、自習可能な教室は CALL 教室 4(10 号館 6 階)の授業の行われていない時間帯のみです。ATRCALL には、会話や単語を聴いて発音する練習がありますが、教室で学習する際は、周りの迷惑にならないようマナーを守ってください。



自宅での利用

ブラウザは IE のみ利用可能です。初回利用時のみ、ログインすると ActiveX のインストールが始まります。始まらない場合や中止した時は、ログイン後に表示される INFORMATION の「アドオンのインストール画面」をクリックすると、インストールが始まります。詳細はユーザーガイド(※1)を参照してください。

コースの学習方法

学生は、9つの自習用コースを受講できます。教室 PC のログインID、パスワードでログインしてください。



情報メディアセンター e-learning システムについて



情報メディアセンターが管理している e-learning システムは、教室 PC の IE トップページにバナーを貼っています。

- ✓ moodle (ムードル)
科目、教員ごとの利用。教材配布、提出、出席、小テスト、アンケートを行っていきます。ログイン ID は PC と同じものです。
- ✓ ATRCALL(エーティーアールコール)
英語学習用システム。既成の学習用コンテンツがあります。詳しくは p.4 を参照してください。ログイン ID は PC と同じものです。
- ✓ 作って教材
中国語対応 e-learning システム。教材の登録が必要です。

ATRCALL は、個人ごとに自由に学習できます。それ以外のシステムについては、授業等で指示された場合のみ使います。問い合わせは、情報メディアセンターまで。

プリンタの利用について

2012年4月より印刷上限値が変更になりました。

- ✓ 寝屋川 150 枚
- ✓ 枚方 200 枚

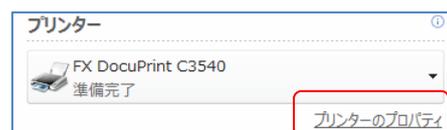
4月に上記の枚数がプラスされました。すべて使い切っても上限値の更新はできません。次回上限値がプラスされるのは、後期授業開始前です。

■ 印刷枚数を確認する方法

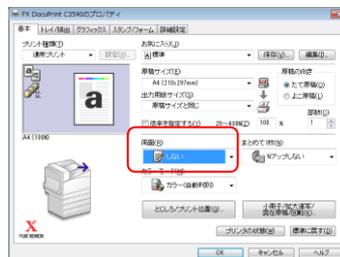


デスクトップ画面の「プリンタ利用状況」から確認してください。

■ 両面印刷を片面に変更する方法



印刷画面から、「プリンタのプロパティ」



「両面」を「しない」に変更して、OKをクリックし、印刷してください。

情報メディアセンター学生窓口

学生の技術サポートを行っています。Word、Excel、PowerPoint 等のアプリケーションソフトの操作方法やプリンタ等機器についての問い合わせの他、変更したパスワードを忘れたときなどの手続きは学生窓口にお越しください。

- 学生技術サポートデスク (10号館4階)
- CALL 準備室 (10号館6階)
- 情報処理演習室 管理室(枚方キャンパス5号館3階)

摂南大学
情報メディアセンター
事務室(10号館4階)
<http://www.setsunan.ac.jp/~center/>
072(839)9113 〒572-8508
寝屋川市池田中町 17-8
center@ofc.setsunan.ac.jp